

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2024年4月20日号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第9回仙台国際音楽コンクール

【開催日程】ヴァイオリン部門:2025.5.24(土)~6.8(日) ピアノ部門:2025.6.14(土)~6.29(日)

第9回仙台国際音楽コンクールピアノ部門課題曲 解説／萩谷 由喜子(音楽評論家)

2025 年に第 9 回を迎える仙台国際音楽コンクールは、土台建設期を脱して、今や独自の確固としたスタイルを持つ、世界に類例をみない協奏曲重視型コンクールとして、内外のピアノ関係者から高い注目を集めている。その鍵はいうまでもなく、セミファイナルとファイナルの 2 次につながる審査段階の課題曲が協奏曲、という点にある。この基本コンセプトは初回から変わらないが、協奏曲ばかりではなく、予選も含めたすべての課題曲の出題設定が、回を重ねるにつれてより実践的になり、若手ピアニストが身に着けるべき学びのプログラムに即した出題となってきた。それが、このコンクールを一層、価値あるものになっている。

今回のピアノ部門の課題曲を前回第 8 回や、前々回第 7 回のそれと比べてみても、課題設定に当たって、過去の応募者の課題選択の傾向や審査段階での演奏実態がしっかり把握された上で、きめこまやかな配慮がなされていることがわかる。

まず、予選ではショート・リサイタルプログラムが問われる。前回は「35 分以上かつ 40 分を超えない演奏時間」とされていたが、今回は「30 分以上かつ 35 分を超えない」に短縮された。これは冗長に陥ることを避ける配慮からであろう。選択曲の範囲は、これまでの「J.S. バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、ブラームスの作品から 1 曲以上、かつ、10 分以上」という条件に、新たにドビュッシーとラヴェルが加わった。フランス系の先生に学ぶ若手も多い昨今、的を射た範囲拡大である。

セミファイナルの課題曲は、前回では、モーツァルトのピアノ協奏曲のうち変口長調 K450、二長調 K451、ト長調 K453、変口長調 K456、ヘ長調 K459 の 5 曲に、ベートーヴェンの第 1 番ハ長調 op.15、第 2 番変口長調 op.19 の 2 曲を加えた 7 曲から 1 曲を選択することとなっていたところ、今回、ベートーヴェンの 2 曲が割愛され、モーツァルト 5 曲のみに範囲が狭まった。この 5 曲はモーツァルトがピアノ協奏曲ジャンルでの最円熟期を迎える直前期、1784 年に相次いで作曲されたもので、二短調 K466 以降の後期 8 大傑作を先触れする隠れ名作群だ。86 年の『フィガロの結婚』や亡くなる年 91 年の『魔笛』といったオペラの中の旋律を思わせるモチーフも潜んでいて、彼のピアノ協奏曲とオペラとの密接な関連性を裏付ける意味からも極めて重要な作品群である。にもかかわらず、オーケストラ・コンサート



での実演機会が減多にないせいか、若いピアニストたちはこれらをあまり勉強していない。その実情に一石を投じるために、故野島稔審査委員長の提言でこれら 5 曲がセミファイナルの課題曲に入ったと記憶している。ベートーヴェンの 2 曲の割愛は、この 2 曲が充分に本番用の大作であるため、若いピアニストたちに本格的な大作の前に学んでほしい、という趣旨とはいささか性格が異なるためかと推測される。逆に言うと、モーツァルトの 1784 年の 5 曲は、コンサート用大作協奏曲に迫り着くための試金石ともいえるべき、恐るべき難関なのである。

ここをクリアできた者だけがよいよ、ファイナルに進むことができる。ファイナルでは、2 つのグループから各 1 曲を選ぶ。

第 1 グループは先ほど少し触れた、モーツァルトの後期 8 大傑作から、イ長調 K488 (第 23 番) と二長調 K537 (第 26 番戴冠式) を除いた、二短調 K466 (第 20 番)、ハ長調 K467 (第 21 番)、変ホ長調 K482 (第 22 番)、ハ短調 K491 (第 24 番)、ハ長調 K503 (第 25 番)、変口長調 K595 (第 27 番) の 6 曲である。ここではモーツァルトが協奏曲創作の旅路の果てに到達した無駄のない澄んだ境地をいかに表現できるかが問われる。前回ではこの第 1 グループにベートーヴェンの第 3 番ハ短調 op.37 と第 4 番ト長調 op.58 も入っていたが、この 2 曲は第 2 グループへと移された。

裏面に続く



第2グループは一般的ピアノ協奏曲レパートリーである。第1グループから移動してきたベートーヴェンの2曲、同じくベートーヴェンの第5番変ホ長調 op.73「皇帝」、ショパンの第1番ホ短調 op.11 と第2番ヘ短調 op.21、シューマンのイ短調 op.54、リストの第1番変ホ長調 S124、ブラームスの第1番二短調 op.15 と第2番変ロ長調 op.83、サン＝サーンスの第2番ト短調 op.22 と第5番ヘ長調 op.103「エジプト風」、チャイコフスキーの第1番変ロ短調 op.23、ラフマニノフの第2番ハ短調 op.18 と第3番二短調 op.30、バルトークの第3番 Sz119、プロコフィエフの第2番ト短調 op.16 と第3番ハ長調 op.26、そして矢代秋雄のピアノ協奏曲である。前回入っていたリストの第2番、サン＝サーンスの第4番、ラフマニノフの『パガニーニの主題による狂詩曲』、ラヴェルのト調の4曲が姿を消したが、それらがなくともこの18曲で古典派、ロマン派、近現代までが網羅されている。日本人作曲家、矢代秋雄の不朽の名作協奏曲が採り上げられていることも日本を開催地とするコンクールとして大きな意義がある。若い挑戦者たちはこれら課題曲の意義を理解した上で悔いなく勉強し、力いっぱいコンクールに臨んで欲しい。



第9回仙台国際音楽コンクール ピアノ部門概要

- ・開催期間:2025年6月14日(土)～6月29日(日)
- ・会場:日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)
- ・出場資格:1995年1月1日以降に出生したもの
- ・運営委員長:植田 克己
- ・審査委員長:野平 一郎
- ・申込受付期間:2024年7月10日(水)～10月23日(水)
- ・審査構成:コンクールは予選、セミファイナルおよびファイナルの各審査段階で構成する。コンクールの出場者を決定するために、動画データ等による予備審査を行う。
- ・オーケストラ:
【セミファイナル、ファイナル】
仙台フィルハーモニー管弦楽団(指揮:高関 健)

◆課題曲

予選

2025年6月14日(土)～6月16日(月)
[独奏]

任意の独奏曲で、30分以上かつ35分を超えない演奏時間のリサイタルプログラムを構成し、演奏する。ただし、下記の作曲家の作品から1曲以上、かつ、10分以上の演奏を含めなければならない。

J.S.バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、ブラームス、ドビュッシー、ラヴェル

セミファイナル

2025年6月20日(金)～6月22日(日)
[オーケストラとの共演]

次の曲目から1曲を選択し、演奏する。

モーツァルト:ピアノ協奏曲 変ロ長調 K450
ピアノ協奏曲 二長調 K451
ピアノ協奏曲 ト長調 K453
ピアノ協奏曲 変ロ長調 K456
ピアノ協奏曲 ヘ長調 K459

ファイナル

2025年6月26日(木)～6月28日(土)
[オーケストラとの共演]

次の①②の両方を演奏する。

①次の曲目から1曲を選択すること。

モーツァルト:ピアノ協奏曲 二短調 K466
ピアノ協奏曲 ハ長調 K467
ピアノ協奏曲 変ホ長調 K482
ピアノ協奏曲 ハ短調 K491
ピアノ協奏曲 ハ長調 K503
ピアノ協奏曲 変ロ長調 K595

②次の曲目から1曲を選択すること。

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 op.37
ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 op.58
ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op.73「皇帝」

ショパン:ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11
ピアノ協奏曲 第2番 ヘ短調 op.21

シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 op.54

リスト:ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 S124

ブラームス:ピアノ協奏曲 第1番 二短調 op.15
ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 op.83

サン＝サーンス:ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 op.22
ピアノ協奏曲 第5番 ヘ長調 op.103「エジプト風」

チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op.23

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18
ピアノ協奏曲 第3番 二短調 op.30

バルトーク:ピアノ協奏曲 第3番 Sz119

プロコフィエフ:ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 op.16
ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 op.26

矢代秋雄:ピアノ協奏曲